

## 第17回大東市庁舎整備に関する推進本部会議 議事要旨

日時：令和5年7月18日（火）午前11時10分～12時10分

開催場所：委員会室

出席：野田副市長、水野教育長、松本上下水道事業管理者、  
東理事兼都市経営部長、南野危機管理監、野村政策推進部長、  
鳥山総務部長、木村市民生活部長、佐々木人権政策監、  
田中福祉・子ども部長、北田保健医療部長、村田都市整備部長、  
北田産業・文化部長、田川会計管理者、岡田上下水道局長、  
北本教育総務部長、渡邊学校教育政策部長、  
辻本選挙管理委員会・公平委員会・監査委員事務局長  
竹中議会事務局長  
（事務局）  
田中政策推進部総括次長、川口政策推進部次長兼行政サービス向上室長、  
清水行政サービス向上室課長、中嶋上席主査、川崎

### 【次第】

次第1 将来的な窓口の在り方について 等

〈事務局より資料について説明。以下、質疑応答〉

（副市長）

- ・ 先日の特別委員会の状況について説明いただきたい。

（政策推進部長）

- ・ 前回の特別委員会については、こちらの説明が不十分であった点もあり、再度8月に開催いただく予定となった。
- ・ 分散化への理解やDX推進について説明を行ったが、色々な部署ごとに窓口が分散していくといった誤解を与えてしまったため、次回の委員会ではもう一度丁寧に説明して誤解を払拭していきたいと考えている。

（副市長）

- ・ 前回の議論を踏まえ、わかりにくかった点などあれば。

（保健医療部長）

- ・ 窓口の分散化ということで、市民会館の5階やすこやかセンターをそのまま活用す

るということであったが、出先にある部署は現状のままの状態を進める方針なのか。

(事務局)

- ・ 市民会館については、耐震性があるのでそのまま市役所機能として使っていきたいが、教育委員会などがそのまま残るということではない。例えば市民の来庁が少ない部署等が市民会館に入ることも考えられる。引き続き検討を進めたい。
- ・ また、すこやかセンターについては、議会でも議論になったところ。増築棟1階に設置予定の総合窓口で統合できる手続き・機能にどういったものがあるかや、本庁から離れていることでの課題等を整理し、本庁に持ってきた方がよい機能・残しておいた方がよい機能の切り分けを行っていききたい。部会や関係部署と協議を進めた上で一定の方向性がでたら、推進本部会議でも説明させていただく予定。

(副市長)

- ・ 整備規模の 9,700 m<sup>2</sup>や 12,000 m<sup>2</sup>の中に市民会館やすこやかセンターの面積は入っているのか。

(事務局)

- ・ 5月にご説明をした 9,700 m<sup>2</sup>には、市民会館5階やすこやかセンターの面積については含んでいない。基本構想の 12,000 m<sup>2</sup>には市民会館の5階は含むが、すこやかセンターは含んでいない。
- ・ 9,700 m<sup>2</sup>という数字をお示ししていたが、すこやかセンターについては、どの機能が必要となるか議論していく必要がある。どうしても本庁舎に必要となれば、その部分の機能分の面積を考えて行く。

(保健医療部長)

- ・ すこやかセンターにはネウボラや家児相など窓口業務がある。特にネウボラは子供のワンストップサービスを行うためにセンターに設置した。テレビ電話といった形で本庁から相談できれば便利。ただ実際に機能するのか懸念する部分もある。高齢支援グループでは地域包括支援センターと本庁を繋いでテレビ相談を始めているが便利である一方、回線がうまくつながらない場合がある等の課題もあるので、そういった点は注意すべきである。

(教育総務部長)

- ・ 先日銀行のキャッシュカードの再発行でオンライン対応を経験した。支店の職員ではなく、本社職員が対応していた。数十支店分の事務を本店で賄うのは大変有効と感じた。ただ、市の施設に置き換えた場合、窓口ブースを設置する公共施設があま

り思い浮かばない。

- ・ 過去にアクロスで出先市役所を銘打って窓口を設置したことがあり、5 つぐらいの課につながるテレビ電話を設置したがあまり機能しなかった。過去の事例なども確認し、反省点や課題等を整理し取り組んでいただきたい。

(事務局)

- ・ 過去事例も確認の上、増築棟整備前から実施できる部分は試行を進めトライエラーを繰り返しながら少しずつ進めて行きたい。
- ・ また、公共施設に限らず、駅や商業施設等の人が多く集まるところに窓口ブースを置くこともイメージしている。他の市町村ではすでに始めているところもあるのでこれらの例も参考に検討していきたい。

(教育長)

- ・ 前回の推進本部会議では大幅な変更と感じていたが、今回の説明を受け、基本構想の大枠内だと理解した。市民会館やすこやかセンターをそのまま残すことも理解できた。
- ・ ただ、前回も出たが市民会館を今後どうしていくのかというところ、市民会館にどこかの部署を残すのであれば、今後、市民会館をいじることがより難易度が高くなるのではないかと考える。この辺りは庁舎と切り分けて考えて行くのか事務局の考えは。

(事務局)

- ・ 将来的にはオンライン化が進むことで、庁舎整備後も本庁舎には余剰スペースが発生する可能性が高いと考えている。余剰スペースについては、民間貸出や市民会館などの公共施設を統合するなどの手法も考えられる。市民会館に入った部署が未来永劫、市民会館に残っていくわけではなく、新庁舎整備後の余剰スペースの発生状況等も踏まえ柔軟に対応していくことになろうかと考える。

(教育長)

- ・ オンライン化で窓口は便利になっていくが、職員側にも本庁と離れていることで、移動に関するデメリットがあると思う。電子決裁やオンライン会議、議会もわざわざ本庁舎へ行かなくていい等、職員の利便性についても向上させていく想定はあるのか。

(事務局)

- ・ 現状でも、市民会館の PC は本庁舎では使えないため、本庁への来庁時は無駄な時間

が発生していると聞いている。デメリットを少しでも無くせるよう進めていきたい。

(教育長)

- ・ 極端な話にはなるが、どこかの部署が市民会館に入ることになるが、市民会館でよかったと思われるようなロジックを用意しておく必要がある。

(副市長)

- ・ すこやかセンターや市民会館を将来的にどう使っていくのか、ある程度議論をしておいた方が良いと感じた。

(会計管理者)

- ・ 市民会館は耐震性があるということだが、老朽化の問題もある。老朽化対策等はどう考えているのか。

(事務局)

- ・ 市民会館をそのまま市役所機能として活用するとなれば、別途、市民会館の老朽化対策は必要となるが、これらの老朽化対策の費用と、市民会館の面積を新庁舎の整備面積に加え建替えた場合のイニシャル事業費は、建替えの事業費の方が高くなる。

(政策推進部長)

- ・ 市民会館の老朽化対策を、この庁舎整備の検討に入れて行くのは筋が違うと感じるので、あくまで庁舎整備として考えていきたい。
- ・ 本庁舎においても、市民会館においても老朽化は進んでいる。

(副市長)

- ・ 庁舎整備の担当課がどこまでハード的にタッチしていくのかという話になる。それぞれの施設には所管部署があるのでどうかかわっていくのか考える必要がある。

(市民生活部長)

- ・ R3年9月の「基本構想」では市民会館を集約し、12,000㎡で建てるということで議決されている。構想で言うコンパクト化は出先の公共施設を集約するということがあったはず。
- ・ この2年間の間に資材が高騰したため、面積を減らす必要がでてきたのではないかとDXは後付けに感じる。
- ・ 市民会館と同じように庁舎整備には他の公共施設も関連してくるため、庁舎整備を行うと同時に公共施設の再配置を考える必要がある。

- ・ 市民会館を今後どうしていくかは当然議論していかなければならない。私自身は市民会館は不要と考える。市民会館の稼働率は3割程度であり、建物維持にかかる費用を考えると採算が取れない。このようなことを考え事業を進めて行く必要がある。ただし、市民会館を閉館するとなるとかなりの反発が想像されるため、本庁舎の移転を理由に進めることで、市民にも納得していただけるのではないかと。
- ・ 費用面から庁舎の規模を12,000㎡から9,700㎡にすることはよいと思うが、他の公共施設をそのままにしておくのであれば、結局維持費がかかり同じではないかと。

(副市長)

- ・ 市全体の公共施設の再配置について、幹部で話し合うことは当然必要である。そういうことを考えたうえで庁舎整備があるということを確認していただきたい。

(理事兼都市経営部長)

- ・ 次の特別委員会でも、同じような質問が出てくると考えるが、事務局はどう答えて行くつもりなのか。
- ・ そもそも議決事項に反するのではないかとという意見があり、今日のような説明を事務局がした場合、議会に納得されるかは未知数。

(事務局)

- ・ 市全体の公共施設については、市有施設の再配置や統廃合を検討する部署があるため、庁舎整備事業の中で、全ての公共施設をどうしていくのかを整理していく認識ではない。また各施設においては、施設を所管する部署もあり、行政サービス向上室を含めた3つの部署で連携していく必要がある。庁舎の動きについては、これらの関係部署に共有した上で、公共施設をどうしていくのかを話し合っていく必要があると考える。

(市民生活部長)

- ・ この基本構想の見直す理由は、DXありきなのか。7階建ての増築棟を建てる費用がないというのが一番の原因ではないのか。物価が高騰したから面積を見直しますということではないのか。

(事務局)

- ・ お金がないから規模を見直すというのが前提にあるわけではない。基本構想の中で規模の精査を明記している以上、単価が高騰せずそのままであっても、本当にこれだけの規模が必要かという検討はしていかなければならなかったと考えている。庁舎基本構想策定後における本市のDX基本計画の策定や、他の市町村のDXに関する

動き等も踏まえ、規模の精査を進めてきた。規模の精査にあたっては、近年の物価高騰による施工単価の上昇についても反映し、報告をさせていただいた。

- ・ 費用の問題が第一ではない。将来的に人口や職員数も減っていき、職員の働き方も変わっていく中で、庁舎内に余剰スペースが発生していくことが想定される。今の段階で税金を使い 12,000 m<sup>2</sup>の建物を建てた場合、後々ガラガラになった庁舎を見て市民の皆様がどう感じるのかを考える必要がある。その時々で適切な規模を建てることを目指していきたい。

(理事兼都市経営部長)

- ・ ある程度工程を示す必要があるのではないか。余剰スペースがいつ発生するのか。統合するのが5年後なのか、20年後なのか。そのあたりの絵姿がないため納得がいかないのではないか。大枠で公共施設を減らしていく方法もある。市民会館やすこやかセンターを民間に売却する方法もある。

(教育長)

- ・ 事務局のこれまでの話を聞いていると、時代にあわせた可変性を重要視していると感じとれた。DXの推進や時代の変化に合わせ、新たに整備をした庁舎のスペースが空いてきた際に、次の計画として市民会館やすこやかセンターを統合していくことを考えて行けばよいし、思いのほかDXが進めば、早く統合していくことも考えられる。その可変性の部分をしっかり説明すれば納得いただけるのではないかと。

(副市長)

- ・ 庁舎整備については、ここの建替えだけでなくいろいろな公共施設をセットにして考える必要がある。せっかくその部分まで話が及んでも、その施設は所管ではないという返しをされるとここのメンバーはそこはどうなるのとなる。やはり庁舎を担当しているということは、全ての公共施設を頭に入れながら議論していくという気概をもって臨んでいただきたい。もっといえば、5年後は9,000 m<sup>2</sup>で行けます。10年後は5,000 m<sup>2</sup>で行けますというように言い切っていて、そのためには10年後までにここまで取り組み、経費はこれだけかかりますなど、マクロの話をどんどんしていただければ、ここのメンバーもそこまでやるならとなる。そこがなかった。できるだけこれもそれも自分の仕事であるという思いをもって取り組んでいただきたい。せっかく行政サービス向上室という名前なので。

(副市長)

- ・ 閉会挨拶

(以上)